

マハティール前首相、UMNO を離党 (2008.5.19)

マハティールの UMNO 離党と息子たちの反応

福島康博

(桜美林大学国際学研究所・非常勤研究員)

5 月 19 日、アロー・スターで行われた UMNO の集会において、マハティール前首相が最大与党 UMNO からの離党を表明した。離党の原因をめぐっては、「アブドラ首相に辞任を迫るため」「リンガム・ビデオクリップの疑惑から国民を目を逸らすため」などの憶測が飛び交っている。そんな中、私はマハティールの 2 人の息子、ムクリズ・マハティールとモクザニ・マハティールの動向に注目している。

UMNO 青年部の幹部であり、先の総選挙で下院議員に初当選したムクリズは、当選早々、アブドラ首相・UMNO 総裁ら党最高幹部らに対し、1969 年に父が時の首相、トゥンク・アブドゥル・ラーマンに対して行ったのと同様、選挙結果の責任をとって辞任するよう手紙を送ってみせた。父と同様、アブドラ現首相・総裁に対しては批判的な立場をとるムクリズであるが、今回の父の離党に関しては「後追い離党」をせず、UMNO に留まって党内から現政権への批判を続けていくと表明した。これは、12 月に予想される UMNO の役員選挙において、党中央の幹部職に転出を目指すヒシャムッディン青年部長兼教育相の後任を狙っての行動とみることができる。ムクリズは「私の行動に父は失望するかもしれないが、わかってくれるだろう」という旨の発言をしており(5 月 22 日、New Straits Times)、自らの政治信条と親子の絆の板ばさみに苦悩している心情を吐露した。

これに対してもう 1 人の息子、モクザニ・マハティールは、ムクリズとは逆に UMNO 離党を表明した。モクザニの UMNO 内での地位は、青年部の元会計担当者であり、一地区のメンバーである。モクザニは F・1 のセパン国際サーキット会長を務めるなど財界人であるため、政治的な立場はムクリズよりも格段に弱い。そのため、モクザニの離党そのものは UMNO に与えた影響を与えない、というのがもっぱらの見方だ。

マレーシアの政界は、大物政治家の子弟がその跡を継ぎつつある。ナジブ副首相の父はラザク元首相であり、先述のヒシャムッディンは、父がフセイン・オン元首相である。アブドラ首相

の娘婿であるカイリー・ジャマルディンや、アンワル元副首相の娘、ヌルル・イッサが先の選挙で初当選を果たし、また、選挙結果を受けてペナン州首相に就任したのは、DAP のリム・キップトシアン党首の息子、リム・グアンエンである。

いずこの国でも、親の七光があれば、政界への進出が可能なのであろう。しかしながら、本人に実力が伴わなければ、「親の劣化コピー」という厳しい評価が待っている。父の離党に対し、異なる対応をみせているムクリズとモクザニ。今回の行動が、彼らの政治キャリアにどのような影響を与えるだろうか。良くも悪くも、父のこれからの動向が大きく影響を与えることになるだろう。■